

Kandai Style

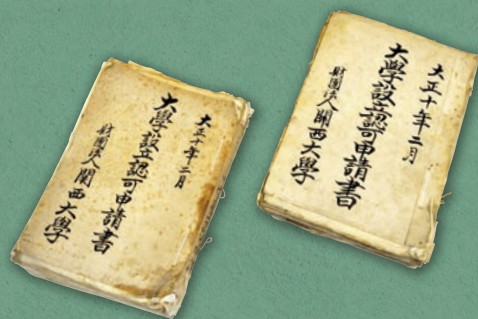
2022.6 Vol.499

関西大学通信

大学昇格100年記念



真理の探究夢の実現
順太郎書





関西大学は6月5日に「大学昇格」100年を迎えます。今から100年前の1922(大正11)年は大学昇格をはじめ、教育・研究活動の基本的理念「学の実化」の提唱、今日まで歌い継がれる「学歌」(作曲:山田耕作※、作詞:服部嘉香)の制定、現在の千里山キャンパスの開設など、今日の関西大学の礎を築いた年です。

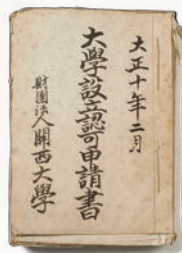
※1930(昭和5)年以降、山田耕柊に変更

山岡順太郎と大学昇格

関西大学は1886(明治19)年に関西法律学校として、大阪西区の願宗寺で産声を上げました。その後、**私立関西大学**として「**大学**」の名称を使っていましたが、実態は専門学校令に基づく専門学校でした。

1918(大正7)年に大学令が公布され、帝国大学以外の公私立大学の設立ができるようになりましたが、そのためには資金確保をはじめ、校地の確保や校舎の建築などさまざまな要件を満たさなければなりません。その難局面を乗り切るためにのちに総理事となる**山岡順太郎先生**の強いリーダーシップのもと、大阪財界の支援を得て、1922(大正11)年、念願の**大学昇格**が実現しました。

また、山岡順太郎先生は「**学理と実際との調和**」を意味する学是「**学の実化**」を提唱しました。そして「**国際的精神の涵養**」「**外国語学習の必要**」「**体育の奨励**」を加えた教学の4本柱が、関西大学の在り方を支えてきました。



山岡順太郎先生

昇格直前に「学の実化」講座

学問の社会的価値を高め、実地的な知識を取り入れるため「学の実化」講座を開催。その第1回目は大学昇格の9日前、1922(大正11)年5月27日に千里山学舎で開催され、駐日フランス大使のポール・クロードルが「フランス語について」というテーマで講演しました(=写真)。その後、国内外を問わず、各界の第一線で活躍する有識者が講師として招かれ、講座は5年半の間に33回開かれました。



大学昇格100年記念事業

記念式典・シンポジウム

6月5日(日) 記念式典 10:00~10:20
シンポジウム 10:30~12:30

▶「大学昇格100年記念特設サイト」にてライブ配信およびアーカイブ配信を行います(申込不要)。

シンポジウムテーマ:「**大大阪の誕生と旧制関西大学の出発—山岡順太郎と学の実化—**」
司会・コーディネーター 市原 靖久 法学部教授

基調講演「大大阪の誕生」

橋爪 紳也氏
(大阪公立大学研究推進機構特別教授、
大阪公立大学観光産業戦略研究所長)

パネルディスカッション

橋爪 紳也氏
数田 貴名 名誉教授、兵庫県立歴史博物館館長
官田 光史 文学部准教授

橋寺 知子 環境都市工学部准教授
熊 博毅 元年史編集室職員・学芸員



記念展示会 「真理の討究 学の実化」

記念展示会では、大学昇格運動、千里山学舎の開設、学歌の制定、当時の学生生活などについて、パネルや写真、映像で紹介するとともに、ゆかりの品を展示しています。

【期 間】4月1日(金)~6月30日(木) 日曜・祝日休館(6月5日、12日は開館)

【場 所】博物館特別展示室 【開館時間】午前10時~午後4時 【入館料】無料

第2学舎1号館前広場および「山岡順太郎胸像」の整備

6月5日(日)、正門を入ってすぐ右にある経済学部と商学部の学び舎である第2学舎1号館前の広場が、山岡順太郎先生の胸像とともにリニューアルされます。

第3学舎から総合図書館の方向に緑地の中を抜けていく、見晴らしのよい空間が誕生。胸像の周りは小さな広場となり、休憩スペースができます。



▲リニューアル後のイメージ

新たに「学の実化」講座を開催

「学の実化」提唱から100年を迎えるにあたり、3月から「学理と実際との調和」という理念を現代社会に問う講座を開催しています(全5回)。

すでに2回目まで終了しましたが、第3回目以降、イヴレス株式会社代表取締役/CEOの山川景子氏、作家の玉岡かおる氏、パナソニックホールディングス株式会社特別顧問の大坪文雄氏など、「学の実化」を実践する経済人・起業家が登壇することになっています。



▲第1回目の講座



詳細および申込みはコチラ▶

女性に門戸を開放

初めて女子学生を迎えたのは1923(大正12)年のこと。北村兼子さんが聴講生として受講したのが第1号です。その後に続いた女子聴講生は少なく、昭和の初期で途絶えてしまいました。戦後、教育制度が改正され、関西大学でも女性の入学が正式に認められるようになりました。今の関西大学には1万人を超える女子学生が学んでいます。



男子学生に交じり受講する北村兼子さん

◆ キャンパス今昔

正 門 前

大学の正門が今の位置に移ったのは、1952(昭和27)年のことでした。それまで正門は、現在の以文館の下をくぐり抜ける坂道の手前にありました。さらに1996(平成8)年、新関西大学会館とモニュメントゲートが完成し、この付近は開放的に生まれ変わりました。



1923年の正門(左から4人目が山岡総理事)



整備された正門付近(1952年)



現在の正門

大運動場(グラウンド)

1926(大正15)年に完成した400mトラックを有する大運動場は、多数の観客を収容できる扇形スタンドも設けられ、当時、「東洋第一のグラウンド」と称されました。大運動場の完成は、昭和初期のスポーツ黄金時代を招きました。現在、大運動場があった場所には尚文館(大学院学舎)と総合図書館が建っています。



1929年頃の千里山学舎(中央にグラウンドが見える)



階段状の観覧席



2000年に完成した尚文館



こうなったらいいな 関西大学

皆さんが関西大学で学びを深める中で、「ここが変われば、もっと良い大学になるのにな」と思うことはありませんか？

このページでは、学部生、大学院生、留学生、新入生の4人に関西大学の未来像を尋ねました。また、前田裕学長から将来の関西大学の方向性を聞きました。

これを機に皆さんもこれからの関大と一緒に考えてみませんか？



さらなるグローバル化に期待



周 詠綺さん

商学部4年次生

私はマレーシアから留学しています。2021年度の東南アジアからの留学生は約30人と他の国からの留学生に比べて少ないのが現状ですが、理由の一つには、**経済的理由で留学したくてもできない**ことがあります。

この解決策として、まずは授業料の減免制度を充実させることが有効的ではないかと考えています。また、ホームシックになる留学生も多いので、食堂のメニューにナシゴレンなどの母国料理を追加し、**食のグローバル化**をしてもらえるとうれしいです。その他にも、宗教を考慮したハラールフードの用意や礼拝場所を設置してもらえると、東南アジアだけでなくさまざまな国の学生が関西大学に来やすくなるのではないのでしょうか。

一方で、学内で印刷ができたり、教科書を購入できたりと、**学生生活に必要なサービスや施設が揃っている**のでキャンパスライフはとても充実しています。だからこそ、学生生活がさらにグローバル化したらいいなと思います。



茂野 裕一さん

理工学研究科 博士課程前期課程2年次生

文理を越えた知識が必要

大学院では、アクティブノイズコントロールという、騒音を抑制する技術を研究しています。社会的に幅広く使われている技術ですが、さらなる性能の向上を目指して日々研究に取り組んでいます。**まさに「学の実化」につながる研究を行っている**と実感しています。

入学してから5年間、**千里山キャンパスで学んできた中で感じているのは、理系と文系の学生が同じキャンパスに通い、交流できることが大きな学びにつながった**ということです。イノベーションを起こしやすい風土がとても魅力的ですし、今後もこの体制を続けてほしいです。

世の中が便利になった今、**これまでよりも一層理系の人材に文系的な知識や考え方が求められる**のではないのでしょうか。例えば、新たな製品作りを考える時に、哲学や倫理的な物事の捉え方が重要になると思います。そうした専門的な知識を身に付けるために、**今以上に学びたい科目を自由に選択できるような柔軟なしくみ**づくりを大学に望みます。



真鍋 晴香さん

総合情報学部3年次生

必要なのは効果的なアピール力



関大のこれまでの歩みを知った中で一番衝撃的なのは、大学創立から総合情報学部ができるまで**100年以上も経っている**ことです。

今後、近隣の大学に情報系の学部が開設されるので、総合情報学部の志願者数をさらに増やすためには、**あえて文理融合で、総合的に情報学を学べる**魅力をうまくアピールすることが必要だと思います。例えば、高校生には「**最新のAdobeが使える**」ことをまず伝えたいです。私も入学してしばらく経ってから気が付きました。在学生でも、アンテナが高い人やゼミ活動で使用する以外は**モーションキャプチャー**や**3Dプリンター**をあまり使っていません。自由に使える設備なのにもったいなく感じます。高槻キャンパスにはK棟のエスカレーターなど、みんなが必ず通る道があるので、そこで**目を引く映像を流して効果的な告知をする**と良いのではないのでしょうか。総合情報学部生ならその映像を制作したい学生が多いと思います。



奥村 克史さん

法学部1年次生

関大ならではの経験を



関西大学のキャンパスはずっと千里山にあって、昔からたくさんの学部がある大学だと思っていました。小さな**法律学校がはじまり**だと知って驚いています。

関大への進学を決めたのは、中学生から続けているバレーボールと勉強の両方をがんばれると思ったからです。**伝統のある法学部**で、将来の夢である警察官になるために、刑法などの法律をしっかりと学びたいと思いました。授業で裁判を傍聴できるのは**大学ならではの学び**だと思います。教職課程を履修して中学校の教員免許も取得したいです。

大学生活では、今までしたことのないアルバイトにも挑戦してみたいです。**関大でしか経験できないことをして、いろいろなことを多く学べたら**、考え方の幅が広がり、**将来の選択肢を増やせるのではないかと思います**。高校生活は、コロナ禍で学校行事がほとんどありませんでしたので、**統一学園祭**などの行事もすごく楽しみです。



Grand Partner in 人・情報
日本アート株



広告業界／コピーライター

日本アート株式会社

梶谷 知世さん

滋賀県立草津東高等学校出身
2016年社会学部卒業

関西大学博物館のPRも担当 アイデアで企業をサポートします

梶谷知世さんは、住宅、学校、食品、飲食、製造など、さまざまな業種のクライアントの販売促進をサポートする総合広告会社・日本アート株式会社に、コピーライターとして勤務しています。ポスターやチラシ、冊子、ウェブページなどの制作を担当し、関西大学博物館のPRツール制作には入社時から携わりました。現在開催中の大学昇格100年記念展示会のポスターやチラシ、ウェブページなども手掛けています。

もともと文章を書くのが好きで、広告にも興味があった梶谷さんは、マスコミへの憧れから社会学部に入学し、マス・コミュニケーション学専攻（現在のメディア専攻）で勉強しました。3年次生になると、コピーライターの山本高史教授のゼミに所属し、実際の仕事の話を聞きながら、広告の考え方やアイデアの出し方を学びます。「先生の授業を受けて、文章を書くだけでなく、アイデアを考え続けるコピーライターって魅力的だ、と思いました」。

就職先に広告代理店を選んだのは、いろいろな業種の会社と深く関わることができるから。入社当初はクライアントのダメ出しに落ち込むこともありましたが、その経験から、相手企業について自信を持って話せるまで情報を収集してから、次の打ち合わせに臨むようになったそうです。

関西大学での初仕事では、「関大生ならきっと足を運びたいくなる」という視点でポスターなどの制作に取り組みました。仕事を通じて、学生時代には気付かなかった関大の良さ、関大職員の強い「関大愛」を知ったのが印象深かったと言います。

「企画やアイデアを考える仕事は楽しい」と話す梶谷さんが、次に目指すのはコピーも書けるディレクター。熱意を買われてたった1人の枠に採用された自身の過去を振り返り、同じ道を志す後輩にアドバイスをくれました。「自分がなりたいという思いをきちんと伝えることが大切。定型文ではない“自分の言葉”でしか伝わらないことがあります」。

ある1日の
スケジュール

9:00 出社、メールチェック
9:30 チームミーティング
10:00 社内打ち合わせ
12:00 昼休憩
13:00 営業に同行し、
クライアント訪問
15:00 提案書作成
17:45 退社



必須アイテムはノートパソコン、ノートとペン。ふと浮かんだ案をメモするときに、スマートフォンも活用します。

Copywriter



「卒業演習1」

神谷 拓 教授

クラブの語源は「みんなで集まる」「固まる」こと。

ゼミも同じ。みんなが集まり協力し、自らの力で解決する

神谷拓教授の「卒業演習1」には、教員免許の取得を目指す学生が多く在籍しています。神谷教授の専門分野である部活動研究などを通じて、教育に必要とされる自治力と社交力などの実践的なスキルを身に付けます。

3年次の専門演習では、ゼミ生が一丸となって動画の制作に打ち込みます。昨年制作した動画「1895年のバレーを体験してみよう!」は、新聞などのメディアでも取り上げられたとか。専門演習で培った団結力や社交性を生かし、4年次の卒業演習では互いの研究に関心を持ち、ゼミ生同士で意見を伝えたり助け合ったりしながら卒業論文の執筆に励みます。またコロナ禍では、一般企業や教育現場でもICTの活用が普及しつつあるため、グループアプリSlackを活用し、オンライン上でのグループワークやコミュニケーションを取るための新たな手法を実践的に学んでいます。

卒業論文のテーマは「発達障害を持つ生徒にどのように関わるか」「どうすれば泳げない生徒が泳げるようになるのか」や、「部活動の経験が本当に企業経営に役立つのか」などさまざま。ゼミ生は、スポーツ教育や体育科教育を軸に研究を進めて課題を模索しますが、テーマを決めるまで苦労することも。そのようなときに神谷教授は、参考文献や自身の研究活動で得た幅広い情報などから選択肢を示しますが、最後は学生自身で決めるように導きます。神谷教授は「学生の頃から自分で考え答えを導き出し、最後までやり遂げる自治力を身に付けてほしい」と話します。

「できないことをできるようにするのが教育学です。教員になっても、企業に勤めたとしても、人と関わりながら生きていくわけですから、みんなで力を合わせて取り組み、困っている人に手を差し伸べられるようになることは重要です。相手の話に耳を傾けて受け入れる。そして、自分のことは自分で考え行動できる人になってほしい。スポーツや体育を通して心身を強くし生きる力を与え、自ら一步を踏み出せる人に成長してください」とエールを送りました。



藤村翼さん(4年次生)

部活動研究を専門とする神谷先生のゼミでの学びを生かし、高校の教員として部活動の指導にも携わりたいです。神谷ゼミでは常に自分で考え行動するため、事前に多くの資料を準備する習慣が身に付きました。ルールだけでなく、原点や歴史を学ぶためスポーツ本来の役割を知ることができたので、生徒にも伝えていきたいです。教員免許取得のためのゼミというイメージが強いかもしれませんが、子どもが好きでスポーツに興味があれば楽しんで学べると 생각합니다。



清水愛莉さん(4年次生)

神谷ゼミは教職を目指す学生が多く、教員採用試験などのさまざまな情報を得ることができます。ゼミで取り組んだ「跳び箱が苦手な生徒を指導する」模擬授業では、けがをしないよう指導するために必要なことを学ぶ、良い経験となりました。ゼミでの経験や周囲の意見を取り入れ、どのように寄り添い声掛けをするのかを工夫していきたいです。将来は、安心感があって何でも相談できる小学校の先生になりたいです。



なるほど・ザ・関大!

大学昇格時に「千里山学報」誕生 ——100年前の本誌のルーツ——

1922(大正11)年に大学昇格を果たした関西大学の記念事業の一つが「千里山学報」の発行です。皆さんが読んでいる『関西大学通信』の源となった活字メディアです。



学報局の人々



「千里山学報」創刊号表紙

創刊号の表紙と2ページ目には千里山キャンパスの広大な敷地の写真が3枚使われ、現在の大阪市福島区にあった校舎から引っ越す予定で建築中の新校舎も写っています。いかにも「大阪のど真ん中から新天地に引っ越した」という感じが伝わってきます。

創刊号は24ページで「発刊の辞」や大阪商業会議所会頭だった山岡順太郎氏を総理事に選出したことなどを記した「山岡総理事を迎ふ」に続き、岩崎卯一教授の論文などを掲載。学術誌の側面ものぞかせる一方で、「校友会報」「学友会報」なども収められ、現在のいくつかの学内メディアをすべて網羅したような内容です。

注目されるのは発行の決定(1922年6月4日)からわずか8日後に印刷し、印刷の3日後の15日に発行と異例のスピードでスタートしたことです。その慌ただしさが、巻末の「編集余録」から伝わってきます。「不慣れな私どもには実際一生懸命だったのです」とし、「予定の発行日に間に合いそうなのでようやく胸をなでおろしました」とあります。また「本大学の昇格はこうしている間にも認可されているかもしれない程切迫した事実であって、次号は『昇格記念号』として発行し…」とも書かれています。

編集余録には慌ただしい発刊前後の舞台裏の他に、当時の苦しい財政事情も記されています。「なにぶん生まれたばかりで皆様のご援助を願わなければ」とし、「額は皆様に任せるけれど、1年間で2円

くらいの見当」と書いています。当時の2円で米が約5キロ買えたというデータもありますから、この「ご援助」は学生にとって決して安くはなかったでしょう。

そんな財政事情がうかがえるのが、巻末の広告です。創刊号から学生生活に関係のある洋服店、靴店、文具店などの広告が掲載されていますが、発刊翌年の1923年の第7号から第13号まで、不動産会社の大きな広告が掲載されます。「大阪住宅経営株式会社」が売り出した千里山住宅地の広告で、「理想の郊外簡易住宅」とし、「風景絶佳、空気清澄」とうたっています。イギリスの田園都市レッチワースをモデルに開発したと言われ、同社の社長は山岡氏です。

この広告は「千里山学報」の読者である関西大学の教職員や校友に住宅を紹介しようとしたものと言えますが、物心両面で関西大学を支えた山岡氏が、学報の苦しい懐具合を察し、この広告を出したのかもしれない。あわせて、関西大学を中心とした文教地区の雰囲気を持たせてセールスポイントにしようとしたのでしょう。

親の代から千里山に住む「千二地区連合自治会」(約2,000世帯)の会長の雑部麻美さんは「大学との関係はこれからの千里山周辺の街づくりにも重要です。今までの絆を大切に学生と住民が安心して暮らせる街にしていけたら」と話しています。



総合情報学部 4年次生

畑 玲音さん

大切なのは楽しむこと。自分で考え行動し挑戦し続けたい

昨年までトライアスロンサークルINFINITYのキャプテンを務めた畑玲音さん。中学・高校で培った陸上競技の経験を生かしたいと考えていたときにトライアスロン競技を知り、INFINITYへの入部を決めました。

「トライアスロンの魅力は3種目を同時に挑戦できること。中でも自分の力だけで時速60kmを出すことができるバイクは、他にはない体験です。試合ではスイム・バイク・ランをこなし約2時間、全力で動き続けた後の達成感はずいぶん」と畑さん。現在、INFINITYには30人ほどが所属し、週3回の全体練習に加え、自主練習を行います。

キャプテンの頃は、コロナ禍でメンバーのモチベーション維持に苦労しました。自由参加のサークルだからこそ「楽しく練習をする」ことを一番大切に、タイムトライアルやリレー形式など練習方法を工夫しました。昨年10月に開催された、日本学生選手権大会（インカレ）の予選では、初めて大会に参加し、良い結果が出せなかったメンバーも多かったそう。でも、「次、頑張ろう」というメンバーの前向きな姿に、楽しく練習をすることがサークル内に良い効果をもたらしたと感じたそうです。

また、畑さんは昨年、近畿学生連合の委員長を務めていたため、2週間という短期間で、関西予選の試合運営を任せられ、初めてのことで何も分からず戸惑います。そんな中、以前から知り合いの監督や審判の方々、他校の選手に助けられました。「満足のいく練習ができない中で、改めて人とのつながりの温かさを実感しました。試合の無事開催かつ、インカレに出場できたときの達成感は忘れられません」。

サークル、自主練習、学業にアルバイトと24時間を全力で過ごす畑さんですが、好きなことをする時間は苦にならないそうです。「自分で何をするかを決めると、それが楽しみになります。将来は大学院に進学して、インターネットの誹謗中傷について研究したい。知識を学び視野を広げること、自分の好きなことが増え、精査されていくと思います。大学院に入学できたら、私にとってその2年間は、将来の選択肢を広げる大切な時間になると思います」と思いを語りました。



2021年10月に開催された
日本学生トライアスロン選手権

今回は、畑さんからの
ご紹介で浅田悠耶さん
(商学部4年次生)が
登場。お楽しみに！

Reon Hata

学部・研究科・併設校トピックス

法学部／法学研究科

安全を考える

6月8日は学校の安全確保・安全管理の日です。その由来は、2001年の同日に発生した大阪教育大学附属池田小学校事件です。同事件により多くの命が犠牲になったことを教訓にし、学校の安全確保に取り組む姿勢を示すのがこの学校の安全確保・安全管理の日と言えます。ただし、確保が必要な安全とは学校内にとどまらず、行き帰りの通学路はもとより、さらには、児童虐待などで問題になるように家庭内の安全も対象になるかもしれません。皆さんも、この機会に子どもにとっての安全とは何かを考えてみてください。

(教学主任 飯島暢教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

新入生オリエンテーション

政策創造学部では、例年4月に新入生オリエンテーションを行っています。

新入生オリエンテーションは、祭典実行委員会の先輩たちが主体となってイベントを企画立案し、新入生がこれからの大学生活を不安なく始めることができるようにさまざまな手助けをしてくれるものです。これから共に学んでいく仲間たちを知り、また自分を知ってもらえる経験にもなるこのイベントを通して、新入生も前向きな気持ちを培ってくれたと思います。

(学生主任 西山真司准教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

データベースを使う

いまインターネット上にはおびただしい数の学術データが存在しています。こういった学術データを利用しない研究は、考えられないほどの状況になりました。東アジア研究で扱うことの多い漢籍のデータベースも、いまや数千万字、数億字のものがあります。ただ、中国で作られているデータベースは高価で、導入している大学はあまり多くありません。しかし、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター(KU-ORCAS)には日本でも有数の環境が整っています。どんどん利用しましょう。

(東アジア文化研究科副研究科長 二階堂善弘教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

共栄共存

世界にはさまざまな民族が共存しており、異なる生活習慣、異なる文化、異なる宗教、異なる意見を理解する努力をし、交渉し、お互いが合意できる道を探ります。そして互いに敬意を持って接してこそ、平和を維持することができます。英語科は、言葉を通じて世界をつなぎ、平和で繁栄していく世の中を創造することに寄与するための教科です。こういうご時勢だからこそ、しっかり聞き、受け入れ、論理的に、かつ適切な言葉を選んでこちらの考えや立場を説明する努力を怠らないようにしたいものです。

(田尻悟郎教授)

経済学部／経済学研究科

いろんな読書術を身に付けよう

皆さん、読書はしていますか？私は仕事柄、大量の本を所蔵しているため、学生から「何か本を紹介してほしい」と頼まれることがあります。その際、「何について知りたいですか？」「どんな読み方がしたいですか？」と聞くと皆さん意外とはっきりしないお返事をされます。一冊の本は、知識を増やす情報源というだけでなく、そこには送り手のメッセージが必ず込められています。それに対してどんな受け止め方ができるか、考えながら読んでみるのも楽しみの一つだと思います。

(副学部長 北波道子教授)

人間健康学部／人間健康研究科

施設をフル活用して挑もう

4年次生にとっての6月は、学業面では卒業研究や卒業論文への取り組みが本格化し、学外では教育実習や就活など、将来を決定付ける行動が活発になる大切な時期です。堺キャンパスには、図書館の他、キャリアセンターやラーニングコモンズといった施設もあり、上記の活動をサポートしてくれる仕組みもありますが、意外と活用しきれていない方もいるようです。これらの施設を下級生の間に利用してみ、必要なときにぜひフル活用していただくことをお勧めします。

(志岐幸子教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

グローバルリーダーの育成

商学研究科では、アジアの流通最前線で活躍する人材育成のためにグローバル・リテリング・プログラムを提供しています。現代流通は、オンライン販売の成長が著しいだけでなく、デジタル化によって既存の流通業者のビジネスが大きく変化しています。特に、世界経済における比重を高めつつあるアジアは、小売業を中心とする流通業の成長が見込まれています。本プログラムは、理論と実務の両面からアプローチすることでアジア流通をリードする人材の育成を目指します。

(岸谷和広教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

ハイフレックス教室の設置

コロナ禍で得られた教訓を反映しつつ、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代に向けた教育環境の整備として、対面とオンライン授業の双方を同時に行うハイフレックス型授業の実施に対応した「ハイフレックス教室」を高槻キャンパスC棟に設置し、今年度から運用を開始しました。デジタル技術を活用した授業や実習を行うための機器やモバイルPCも備え、自宅などから教室PCに接続でき、リモート受講でも対面授業のような臨場感のある授業の実施が期待されます。

(教学主任 井上真二教授)

社会学部／社会学研究科

「分からない」ことを大事にする

高校までの「勉強」と大学での「学問」との違いとは何でしょうか？高校までの勉強は「分からない」ことを「分かるようにする」こと、つまりテストで満点を取ることが目標です。

でも、大学での学問はそれはゴールではありません。次のステップに進んでいくことが必要になります。つまり「自分は何が分からないのか？何を知りたいのか？」ということ、自分自身で探していくという段階です。

自らの問いを自分がつくっていくことが、大学生にとっての主体性と可能性の中心なのです。

(教学主任 古川誠准教授)

社会安全学部／社会安全研究科

COVID-19災害を検証する

社会安全学部の開設10周年目の2020年にCOVID-19の世界的な流行が発生しています。学部として2018年に「社会安全学入門」を発刊していますが、COVID-19は社会安全学の応用問題と言えます。COVID-19災害を学部・研究科の教育・研究の中でどう扱っていくのか問われています。そこで、山崎栄一教授を代表として関西大学教育研究高度化促進費を使い、自然・人文・社会の研究者が議論を重ね「検証COVID-19災害」を3月に発刊いたしました。ぜひご一読を。

(高鳥毛敏雄教授)

法科大学院

無料法律相談を2022年度も実施

法科大学院では、2004年の創設時より社会貢献につながる授業の一環として、市民の皆さまを対象に、無料法律相談を実施しています。2021年度は従来の対面形式での実施に加え、オンライン形式での相談も受け付け、1年間で16件の相談がありました。

本法律相談では、弁護士資格を有する実務家教員と、守秘義務を課された法科大学院生が協働し、法律に基づき問題解決に向けての具体的助言を行うことで、市民に寄り添うことができる実務感覚に優れた法律家の養成を目指しています。(大住洋教授)

詳細については、
こちらから
ご確認ください。



関西大学初等部

第13回 関西大学初等部入学式を挙行了しました

4月7日、満開の桜と暖かな陽光に彩られた中、芝井敬司理事長ご臨席のもと、第13回入学式を挙行了しました。マスク着用や手指消毒ほか基本的なコロナ感染予防対策のもとでしたが、新入生の呼名にも元氣いっぱいのお返事ができていました。明けて8日の始業日。校門で校長が迎える中、大きく新しいランドセルを背負って、元氣よく挨拶しながら登校。校内テレビ放送での対面式では、6年生の歓迎の挨拶に姿勢よく聞き入っていました。頼りになる上級生の見守る中、夢いっぱいのスタートが切れたことでしょう。これからの初等部生活で広く深く学び、考動しながら関大っ子として成長してくれることを期待しています。

(教頭 田淵良二教諭)



Attention 大学からの重要なお知らせ

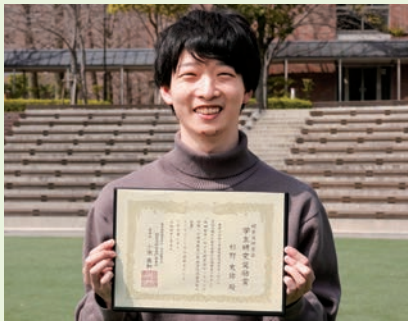
社会的課題の解決を志す者を募集 -大学昇格100年記念で「山岡塾」を創設-

大学昇格100年を迎えた関西大学では、学園の理念(学是)である「学の実化」を具現化する新たな試みとして、山岡塾を創設します。私たちは、解決すべき多くの社会的課題に直面しています。あなたも社会的課題を解決するチームの一員として、仲間と切磋琢磨しながらチャレンジしてみませんか。

1チーム最大100万円の資金提供

山岡塾の塾生は、学生の皆さんや卒業生、併設高等学校の生徒を対象に募集します。5～6名で1チームを組成し、正課外の活動として、経済の活性化や地方創生、DX・AIの活用、SDGsの推進、環境問題への対処など、チームで社会的課題の解決に向けて取り組みます。活動に際しては、1チーム最大100万円の活動資金が提供されるほか、本学教職員や校友等による助言を得ながら取り組むことができます。ご興味のある方はぜひ積極的にご応募ください。

【募集対象】 本学の学部生・大学院生、卒業・修了生(3年目まで)、併設高等学校の生徒
【募集人数】 30名程度(5～6チームを編成する予定)
【活動期間】 2022年8月下旬～2023年3月下旬
【選考方法】 エントリーシートによる書類選考および面接選考(オンラインによる集団面接の予定)
【応募期間】 2022年6月6日(月)～6月30日(木)
【応募方法】 山岡塾ウェブサイトへのアクセスのうえ、「2022年度塾生募集」からご応募ください



受賞を喜ぶ杉野さん

器を思い浮かべる人がいるかもしれませんが、最近では体内の特定の場所に取り込んだ薬を体外から超音波を当てることで破壊する「ドラッグデリバリーシステム」への応用が期待されています。

しかし、超音波が生み出す気泡が固体を破壊するメカニズムはいまだ完全には分かっておらず、杉野さんの研究成果はその原理解明と応用へとつながる重要なものとして評価されました。

(システム理工学部 山本真人准教授)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

学生の受賞紹介

システム理工学専攻物理・応用物理学分野の杉野史弥さん(指導教員:山本健教授、2021年度博士課程前期課程修了)が、超音波研究会で学生研究奨励賞を受賞しました。

この賞は特に優れた発表を行った学生に対して授与されるもので、杉野さんは博士課程を含めた多くの学生の中から選出されました。

受賞対象となった研究は、超音波を液体に当てた際に生じる気泡が液中にある固体をどのように破壊するかを詳細に調べたものです。超音波というエコー検査や眼鏡の洗浄

関大トピックス

1・2年次生の悩み解決ツール「関大版 ハタチのトビラ」稼働中

大学生活の4年間は、学問を深めるのはもちろんのこと、将来を見据えた準備も必要です。

今年4月から始動した「関大版 ハタチのトビラ」では、先輩や教員、企業の採用担当者(OB・OG)らによる大学生活や就職活動に関する関大生限定動画や、社会人の1日に密着する動画など100本以上視聴が可能。将来の選択肢を広げることができます。

また、「マイテーマ&アクションプラン」では、自身の「興味・関心」に基づいてテーマを設定し、毎月の行動を【①軸の言語化→②選択肢を知る→③学びと実践→④成長の記録】でブラッシュアップを重ねて、充実した大学生活につなげます。

さらに、マイテーマを設定するとリコメンド動画が表示されるため、自身の「興味・関心」に沿った動画を視聴することが可能となります。



詳細・
視聴方法



国際交流の場“Mi-Room”がリニューアル

千里山キャンパス第2学舎1号館2階にある“Mi-Room(エムアイルーム:Multilingual Immersion Room)”がリニューアルされ、学生が立ち寄りやすく、居心地の良いオシャレな空間に生まれ変わりました。Mi-Roomでは、海外出身の教員や国際経験豊かな学生が、多彩なセッション・イベントを提供しており、英語をはじめ、韓国語・中国語などの語学や異文化を学習・体験することができます。

留学を経験した先輩のレポートや海外の書籍を読むために気軽に立ち寄ることも可能。学生の皆さんにとって国際交流のきっかけとなる場所を提供しています。



大学昇格100年記念 スタンプラリーを開催中

大学昇格100年を記念して、スタンプラリーを開催しています(10月10日まで)。期間中に昇格100年に関連する6つのスポットを巡り、アプリ上でスタンプを集めて、パズルを完成させればOK! 達成者にはノベルティグッズがプレゼントされます(無くなり次第終了)。

スタンプラリーの遊び方やスポットなどの詳細は、スタンプラリー特設サイトをご覧ください。

スタンプラリー特設サイトはコチラ▶



よもやまばなし
関大人 四方山話 ◆「おトクな関西大学です。」

学校法人関西大学理事長 芝井 敬司



まもなく、6月5日に大学昇格100年がやってきます。38年前に関大に赴任したころのこと。「11月4日の創立記念のお休みはわかるけど、この昇格記念って、いったいなあに?」と疑問に思った記憶がある。まあいいか、記念日が2つあって、けっこうおトクかも。

1922年の大学昇格は、私たち関西大学にとってまことに重要な画期でした。当時、大学といえば5つの帝国大学のこと。1886年に大阪市内に誕生した夜間の法律学校から出発した私たちには、とても及ぶべくもなかったのです。

大学令がこの光景を変えました。私立の有力大学が次つぎに誕生し、やがて帝国大学に伍して、個性あふれる高等教育機関に成長していきます。関西大学も、この時期に大学昇格を果たします。ここ吹田市千里山に鉄道が敷かれ、住宅が整備され、大学キャンパスが開かれ、学歌が作られ、学是たる「学の実化」が定められました。

気がつきましたか。そう、関大の歴史は、あなたが生きる今につながっています。

編集後記

今年は関西大学が大学昇格100年を迎える記念すべき年です。在学生の皆さんには、それだけ多くの卒業生の先輩方がいるということで、就職活動中や卒業後に何らかの新たな結び付きが生まれるかもしれませんし、さまざまな恩恵を得られることも多々あると思います。普段皆さんと接している教員の立場としては、皆さんにもいづれ現役関大生を支える卒業生の一人として活躍してほしいと強く期待しています。大学生活を満喫しながら生涯にわたる関大愛をしっかりと育んでください。 (広報委員・法学部教授 笹本幸祐)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2022年6月1日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)

関西大学は2022年に大学昇格100年を迎えます

今月の表紙

山岡順太郎先生が揮毫した「真理の探究 学の実化」(個人蔵)を中央に置き、大学昇格頃の写真(いずれも関西大学年史編集室蔵)を配列した。
(右)上から時計回りに、1927年に竣工した大学本館、大学祭でにぎわう法文坂、文部省に提出した大学設立認可申請書、1922年に竣工した予科校舎、音楽部による演奏会、1928年に竣工した図書館、1926年に完成したクラブハウスと大運動場)

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。